

座間市市民協働課
平成 27.4.28 受付
第 号

相互提案型協働事業実施報告書

平成27年4月28日

(宛先) 座間市長

団体住所 座間市ひばりが丘3-38-4

名称 座間市レクリエーション協会

代表者氏名 会長 佐藤 節子

市担当課 企画政策課

所属長 課長 山本 尚今



次のとおり報告します。

1 事業名	市民と協働による座間市マスコットキャラクター「ざまりん」の活用体制事業 ミステリーウォーク探検隊「ざまりんをさがせ」
2 事業形態	<input type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成25年度選考（平成26年度実施）
4 報告期間	26年4月1日 から 27年3月31日 まで
5 事業費	129,597円（うち座間市支出分129,597円）
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	市内で全2回のウォークラリーを実施した。 第1回は入谷地区を中心として、谷戸山公園や星谷寺、鈴鹿長宿等の名所をポイントとし、市の特産・推奨品を取り扱うJAや商店街を巡った。 第2回は、相模が丘地区を中心として、相模が丘仲よし小道、歴史的土木遺産の相模野基線や市内企業を巡った。
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input type="checkbox"/> 事業記録写真 <input type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	市民と協働による座間市マスコットキャラクター「ざまりん」の活用体制事業 ミステリーウォーク探検隊「ざまりんをさがせ」
-----	---

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	十分達成できたと思う。	十分達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<p>第1回は、参加者が市内の名所をポイントし、そこにあるなぞなぞを解いたり、地元の解説者をつけることで、市の歴史を学んで貰うことが出来た。</p> <p>また、商店を巡り、市外の参加者が座間の特産品を知る事により、新たな顧客確保を望めた。</p> <p>第二回目の実施では、市内で活躍している施設または企業を見学することによって、現在の座間市の状況を知る貴重な体験が出来た。</p> <p>ウォークラリーの楽しさを多くの方に知ってもらうとともに、普段見落としている座間の魅力を再確認できた。</p>	<p>地元の方の協力で、市内の名所、旧跡を見学することができ、地域の魅力を再発見することができた。</p> <p>市の特産・推奨品を取り扱う商店街を巡ることや、通常は見学できない市内企業の内部等を見学し、市内産業に目が向くことで、地域の活性化に繋げることができた。</p> <p>市のマスコットキャラクターざまりんを介し、シティプロモーションを推進する組織として、互いに検討、研究、調査し、市内外に座間市を知ってもらうきっかけをつくることができた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	十分できた。
	できたと思う。 行政と調整を取りながら、月に一度程度の話し合いの場を設けた。	

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	すぐに連絡が取れる状態にし、変更があればその都度話し合いの場を設けた。 定期的に会議を開き、共通の認識ができるように努め、スケジュール等の見直しを行うことができました。
	報告事項や変更があればすぐに連絡し、調整できるよう努め、情報交換等を行うことができた。	
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	十分できた。 お互いの意見を尊重しつつ、必要なときは、随時、話し合いの場を設け、協議することができた。
	できたと思う。 目的を共有しながら、お互いの役割を認識し、協働で事業を進めていくことができた。	
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	築けた。 商店街や企業などとの関係性を活かし、調整・折衝事項を担当した。公共機関を活用し、広報活動を円滑に進めた。
	築けたと思う。 団体の立場で行動できる範囲で活動し、行政よりもイベント慣れしている経験を活かし、参加者が楽しめるような内容を考案した。	

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	(団体の役割) ・ウォークラリーの知識提供 ・イベント内容の企画・進行 ・賞品・衣装等の制作 ・当日の指揮・誘導	(市の役割) ・物品等の準備 ・広報活動 ・商店街や企業との調整 ・職員応援体制の構築 ・「ごまりん」を介したシティプロモーション

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正だったと思う。 イベントの運用に秀でている集団なので、スムーズにイベントを運用することができた。	適正だった。 調整事項や広報業務を市が担当することで、有意にすすめることができた。
実施結果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	
	できたと思う。 団体内で対応しきれない分野は、市に協力を求めることができた。	できた。 必要に応じて、スケジュールの見直し等、臨機応変に対応することも出来た。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	出来たと思う。 団体単独では難しかった広範囲での広報や関連団体との調整を市に任せることで、より内容の幅が広がった。	出来た。 ノウハウがないウォークラリー事業の企画や運用を団体に任せることで、事業がスムーズに進んだ。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) 活動可能な範囲で、市に協力していきたいと思っている。市ができない部分を補っていきたいと考えている。	(市の考え) 今後はそれぞれの立場で、シティプロモーションを推進していきたい。団体に活動を委ね、自主的に行動して頂ければと思っている。